さいつごろ、雲林院の菩提講に詣でて侍りしか
格助 係助 格助 格助 下二・用 補動・ラ変・用 接助 Ⓣ 過去「き」已

は、例の人よりはこよなう年老い、うたてげなる翁
接助 格助 係助 格助 上一・用 形ク・用・ウ音便 形動・体

二人、嫗といき合ひて、同じ所に居ぬめり。
形動・体 四段・用 接助 格助 形シク・体 上一・用 完了「ぬ」終

あはれに、同じやうなるもののさまかなと見
比況「やうなり」体 格助 終助・詠嘆 格助 上一・用

侍りしに、これらうち笑ひ、見かはして言ふやう、
補動・ラ変・用 形シク・用 接助 四段・用 四段・用

Ⓣ 過去「き」体 接助 （接頭語）四段・用 四段・体

「年ごろ、昔の人に対面して、いかで世の中の
格助 格助 サ変・用 副詞 格助 格助

見聞くことをも、聞こえ合はせむ、このただ今の
四段・体 格助 係助 下二・未 意思「む」終 格助 格助

入道殿下の御ありさまをも、申し合はせばやと
格助 係助 ⓚ翁→いま一人の翁 格助 終助・願望 格助

思ふに、あはれにうれしくも会ひ申したるかな。
四段・体 係助 補動・四段・用 終助・詠嘆 接助 形動・用 形シク・用 四段・用 ⓚ翁→いま一人の翁

今ぞ心やすく黄泉路もまかるべき。おぼしきこと
（よみぢ） 四段・終 係助 形ク・用 係助 可能「べし」体 形シク・体

打消「ず」体 過去「けり」体

言はぬは、げにぞ腹ふくるる心地しける。かかれば
四段・未 係助 副詞 係助 下二・体 サ変・用 ラ変・已 接助

係助 四段・未 四段・已

こそ、昔の人はものの言はまほしくなれば、穴を
格助 係助 格助 願望「まほし」用 接助 格助

掘りては言ひ入れ侍りけめと、おぼえ侍り。
四段・用 補動・ラ変・用 接助 係助 下二・用 Ⓣ 過去推量「けむ」已 格助 下二・用 補動・ラ変・終

返す返すうれしく対面したるかな。さても、いくつ
副詞 形ク・用 サ変・用 完了「たり」体 終助・詠嘆

にかなり給ひぬる。」
格助 係助 補動・四段・用 完了「ぬ」体 四段・用 Ⓢ翁→いま一人の翁

と言へば、いま一人の翁、
格助 接助 四段・已 格助

「いくつといふこと、さらにおぼえ侍らず。
格助 四段・体 副詞 下二・用 補動・ラ変・未 Ⓣ 打消「ず」終

ただし、おのれは、故太政大臣貞信公の蔵人少将と
係助 格助 格助

申し折の小舎人童、大犬丸ぞかし。
過去「き」体 係助 四段・用 格助 終助・強意

さきごろ、雲林院の菩提講に参詣しましたところ、
普通の人よりも格別に年老いて、異様なおじいさん
が二人、おばあさんと一緒になって、同じ場所に座
ったようです。
まあ、同じような（老人たちの）様子だなあと見て
おりましたところ、老人たちが笑ってお互いに顔を
見合わせて言うことには、
「長年、昔馴染みの人に会って、どうにかして世間で
見聞きすることを、話し合いたい、現在の
（申し上げ合いたい）
藤原道長殿下のご様子を話し合いたいと思ってお
りましたが、本当に嬉ことにお会い申し上げたことだ
よ。
今なら、安心してあの世に行くことが出来ます。
思っていることを
言わないのは、（諺にもありますが）本当に腹が膨れ
るような気持ちがしますなあ。だから、
昔の人は何か言いたいことがあると、穴を
掘ってその中に言い入れたのだろうと、思います。
と言うと、もう一人の老人が、
「何歳になったかは、全くおぼえておりません。
あなたはいくつになりなさいましたか。」
しかしながら、私は故太政大臣貞信公が蔵人少将
と（世間の人が）
申し上げていた頃の小舎人童の大犬丸ですよ。

©高校古文No.1授業ノート　https://kobun.info/